

## ● 教育学研究科 教育学専攻 (幼稚園教諭専修)

中部大学の教育理念のもと、平成20年4月に7番目の学部として現代教育学部が設置され、幼児教育学科と児童教育学科(現「現代教育学科」2017年4月1日より学科名変更、以後、「現代教育学科」と記載)の2学科が創設された。なかでも、幼児教育学科に関しては、近年、家庭や地域社会の教育力の衰退、人間関係の希薄化など社会状況の変化にともない、就学前の教育・保育が抱える問題が複雑・多様化する一方、幼稚園教員あるいは保育関係者が対応すべき課題が山積している。例えば、健全な心身の発達が不十分な幼児や周囲の環境に関わり、遊びに生きて学ぶ意欲の乏しい幼児、子育てに不安を抱く保護者、児童虐待への対応や外国籍の園児への教育支援、幼保小連携の問題など、幼稚園あるいは保育現場の抱えている問題は多岐にわたる。

今後、こうした状況に対応するために、高度な専門職としての幼稚園教員あるいは保育関係者の資質が求められている。教育学専攻で目指す「高度な専門的知識・技能をはじめ、実践的指導力やコミュニケーション力等の育成」はこれまで以上に不可欠になり必要とされる。

教育学専攻では、幼稚園教諭専修免許状を取得できる教職課程を設置し、現在教員あるいは保育者に求められる専門性・コミュニケーション力等の資質能力の向上に鑑み、「高度な実践的指導力」を身に付けたミドルリーダーの養成に寄与することで、今日幼児・保育現場において必要とされている教員養成を行っている。

そこで、教育学研究科教育学専攻では、現在だけでなく、次世代の子どもたちをめぐる複雑な問題に対応でき、改善に向けて果敢に挑戦していく教育者を輩出するために教職課程を設置する。幼稚園教育要領に「義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とする。」とあるように、現在の幼児・保育現場においては、高度な専門的知識だけではなく、実践能力やコミュニケーション能力をもった教員の養成が必要である。これは、本専攻の教員養成の理念である「高度な専門的知識・技能をはじめ、実践的指導力やコミュニケーション力等の育成」にふさわしく、目的達成のために大いに役に立つ。

前述の教員を養成するために、教育学・保育学をはじめ、教育心理学、教科教育学を基盤とし、各種発達支援科目を配置して、学際的、実践的な専門教育を展開し、子どもたちの生活の全局面で現れる多様な発達の危機に対応できる高い専門性と総合力の資質向上を目指す。その重要な一環として、本教育学専攻に幼稚園教諭専修免許状が取得できる教職課程を設置している。

以上のとおりに、大学院における高度な専門職業人としての資質を持ち、幼児教育・保育現場において、多様で複雑な問題に対応してきめ細やかな指導を行う質の高い教員を目指す。そして教育現場においてリーダーシップを発揮する「高度な実践的指導力」を備えた幼稚園教員の養成を展開する。

## ● 教育学研究科 教育学専攻 (小学校教諭専修)

中部大学の教育理念のもと、平成20年4月に7番目の学部として現代教育学部が設置され、児童教育学科(現「現代教育学科」2017年4月1日より学科名変更、以後、「現代教育学科」と記載)と幼児教育学科の2学科が創設された。なかでも、現代教育学科では、教育実践力、教育支援力を備えた専門的職業人の養成を目指し、教育目標として「次世代教育」のあり方についての深い知識、教育実践力および「人間的資質」を備えた人材を養成することを掲げた。次世代を健全に育成する人材に対しては、とりわけ乳幼児や児童に対して温かいまなざしと愛情に裏打ちされた専門的な知識が求められており、現代教育学科では、自らの生き甲斐として継続的に専門的知識を深め、自己の成長を追究する言行一致型の教育者を養成することを目標としている。

現代教育学科の教育目標を達成するために、小学校教諭および特別支援学校教諭の免許取得を可能にする教育課程のもとに教育研究活動を推進し、その後も継続して学ぶことができるように大学院教育学研究科を設置している。

また、近年、社会状況の変化にともない、学校教育が抱える問題が、複雑・多様化する一方、教員が対応すべき課題が山積している。例えば、子どもたちの学力・学習意欲の低下をはじめ、いじめや不登校等の生徒指導上の課題への対応、特別支援教育の充実、外国人の児童生徒教育をめぐる状況、家庭や地域との連携協力の必要性など枚挙に暇がない。さらに、いわゆる団塊の世代の教員の大量退職に伴い、教員全体の約3分の1の教員が退職し、経験の浅い教員が増え、リーダーシップのとれる中堅教員の不足が危惧されている。

こうした状況に対応するために、高度な専門職としての教員の資質が求められているが、これまで以上に、高度な専門的知識・技能をはじめ、実践的指導力やコミュニケーション力等の育成が不可欠になってくる。

そのため、教育学研究科教育学専攻に教員に求められる資質能力の向上に鑑み、小学校教諭専修免許状を取得できる教職課程を置き、教員養成を行っている。

上記に述べたように、次教育学専攻では世代の子どもたちをめぐる複雑な問題に対応するため、教育学・保育学をはじめ、教育心理学、教科教育学を基盤とし、各種発達支援科目を配置して、子どもたちの生活の全局面で現れる多様な発達の危機に対して、学際的、実践的な専門教育を展開して、高い専門性と総合力を備えた人材を養成し、これらの危機の改善に向けて果敢に挑戦していく教育者を輩出することを設置の目的としている。その重要な一環として、本教育学専攻に小学校教諭専修免許状が取得できる教職課程を設置している。時代の教育動向の変化を見据えながら、小学校現場が抱えている多様な問題に対応できる高度な専門職業人としての小学校教員養成を展開している。

以上の点を配慮しながら、大学院における高度な専門職業人としての資質を持ち、きめ細やかな教職指導のできる教員養成を行っていきたい。